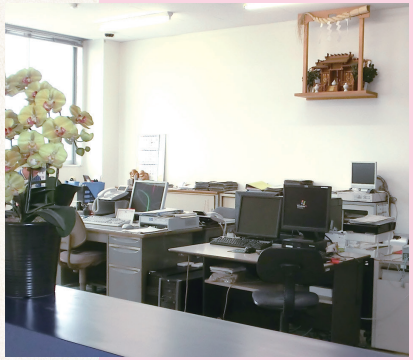
株式会社ユウキ工業

母・妻・そして女性経営者という生き方

取材・文　古賀千根



製造業には珍しく社長が女性である株式会社ユウキ工業は、小ロット生産や試作に特化した精密板金と溶接の会社です。創業者の長女であり現社長の北澤芳恵代表取締役社長は、経営者と母親という二つの役割を両立されています。その姿を追いました。

行動して世界を広げる

北澤社長は学校で情報処理を学んだあと、新宿でのOL生活を満喫していました。当時、父親から「ユウキ工業を手伝ってくれ」との誘いがあり、OLのかたわら経理の手伝いはしていたものの、入社に関しては、親子で働くことに抵抗があり、ずっと拒んでいました。最終的にはプライベートには口を挟まないなど、いくつかの条件を出し、当社に入社。当時は〝製造業なんて面白いはずがない、女性がやるものではない〟という固定観念を持って働いていました。しかし、入社後、4年ほど経ったときに変化は訪れました。

柔らかい笑顔と口調の北澤社長。

限られた人数の中で業務をこなす中小企業。人手不足で必要に迫られて現場に入ってみたところ、考えが一変。ものづくりのおもしろさに魅せられてしまいました。当時は現場では図面を持って走り回っていましたが、北澤社長が情報処理を学んでいたことから、コンピューターを導入し、業務の効率化に成功。やりがいを感じたときでした。

やむを得ず飛び込んだ〝ものづくりの世界〟でしたが、持ち前の好奇心と行動力で自分自身の世界を広げていきました。

〝ものづくり企業の女性経営者〟という道

入社して12年。以前から「60歳になったら退く」と明言していた結城昌臣会長の言葉どおり、社長の座はバトンタッチされました。はじめは、当社で働くことさえ拒絶していた北澤社長が「私がやらなければならない！」とみずからの強い意志で社長に就任。製造業での女性経営者の道が始まったのです。

経営者になってまず感じたのは責任感の重さ。自分でものごとを決める行為の重み、社員だけでなくその家族も一緒に支えていくというプレッシャーに苦しんだこともあったといいます。しかし、「女だから、娘だから、二代目だから」と言われることに抵抗を感じ、逆に甘えが許されないと、常に自分を律して社長業に挑んだそうです。

そうはいっても女性。仕事と家庭を両立するにはさまざまな苦労がありました。2人目を妊娠・出産したときには、周囲に迷惑をかけてはいけないという思いから、産後二週間で復帰。〝這ってでも会社に行く〟という気持ちからでした。

また、家事はすべて自分でこなされています。その背景には母親の姿がありました。「母は、旦那さんには迷惑をかけないという考えを持つ強い人でした。その姿を見ていたので。」

「経営者と母親の切り替えはどのようにされているのですか」という質問に「出勤・退社の車の中で切り替えています」とのこと。経営者として母親として、前向きに進む姿が印象的でした。

リゾートホテルのようなこだわりの社屋。

女性の感性を経営に活かす

ユウキ工業を訪れたとき、ひと際、シンプルな社屋が目を引きました。外から見ると、一見シンプルなリゾートホテルのよう。〝工場らしくない工場〟をコンセプトにデザイナーズマンションを設計する会社にデザインをしてもらいました。全体的に天井が高く窓が大きいため開放感があります。広い玄関にはベージュのタイルが敷かれ、2階にある食堂はモダンなカフェのよう。2階に上がってきたときに、仕事と違う世界があるようにしたいという思いを具現化しました。

働く人にとって気持ちのいい空間は女性の感性を経営に取り入れた結果でした。

学生への三つのメッセージ

一つ目に、働くことで自分自身が社会の一員として存在できるので楽しいということ。

二つ目に、固定観念を捨ててやってみたら、楽しいことがあるかもしれないので、勇気を持って行動してみてほしいということ。

三つ目に、企業規模の大小に関わらず、自分なりの仕事は楽しいということ。

1階の工場と2階のバルコニー。

ひとつひとつ言葉を選び、柔らかい口調で語る北澤社長。〝経営者としての芯の強さ〟と〝社員・家族などの人に対する優しさ〟の両面を併せ持つ女性だと感じました。

株式会社ユウキ工業
神奈川県相模原市中央区下九沢 1093-1
TEL 042-700-8070　FAX 042-779-8702
http://www.yuki-k.co.jp/